



▲1階にある広さ120㎡以上のラウンジは、キッチンワークトップカウンターに囲まれる生活の拠点。インテリアと装飾は、映画の名セリフをデザインで取り入れられている。



▲3色のシステムキッチン、冷蔵庫からオーブンの調理家電、オープンな食卓も各機取り囲んだキッチンカウンター



▲部屋の広さは13.4〜16.1㎡。男女分かれたホビーバルスームは音楽機、ラッドライクスペースは隣隔で共用する



1992年築、鉄骨コンクリート造5階建ての旧日本丸ビル敷地を再開発したFILMS和光は、丸の内線有明駅南口から徒歩10分、丸の内線有明駅南口から徒歩10分、丸の内線有明駅南口から徒歩10分、丸の内線有明駅南口から徒歩10分

超
本格シアタールームを共用部にも完備した、いまだかつてないソーシャルアパートメントが人びとを惹きつけている。

DVD鑑賞を心のオアシスにする住者は、その声援で部屋に内装の多様を待たせ、ソリヤバルアパートメントは、マンション内の共用部に、キッチンやラウンジなどを、住者同士の交流を後押しする設備を備えた賃貸住宅のこと。首都圏を中心に約40棟、2100戸のソーシャルアパートメントを運営する株フロロパルエージェンツが昨秋、埼玉浦和光市に「F.I.L.M.S.和光」をオープンしたのだ。

「もともと人が入居したら、この物件のメインコンテンツである映画を通して、いろんな感性を吸収してくれます」と話すのは、建物内容案内してくださった営業部の伊藤さん。なんと、F.I.L.M.S.和

光の企画開発を担当した根本さん。「ここは所々人と共有した映画や時間が様々なアイデアにつながり、世界が広がるきっかけになれば」と、同社創設と「映画館」をテーマに企業理念としていう。

「交流が第一目的の住居さんが集まる通入り、映画館の缺はN.G.利用者には、入口までの利用告知ボードに時間や作品名などを書き込み、それを見れば館内に入るほか、入居者をいっしょに歓迎するのがF.I.L.M.S.和光の流儀だ。

ON AIRの表示が点灯して光る扉の扉を開けると、40冊以上のゆとりある案内、実際に劇場でも使われているシネマニアが6席並ぶ。照明が落ち、映画が真っ暗になった観客列の席で、映画も音響も想像以上に迫力で、自宅のテレビで観たときとはまるで違う作品の

ようだった……。

なるほど、「中華圏はいい」と伊藤さんが細までこだわり抜いた映画館は、さすがのオリジナルである。映像再生機器の操作は、とても簡単かつマニュアルも用意。国への音響力を誇り、連音対策も抜かりない。

さらに、F.I.L.M.S.和光は、大型キッチン、カフェ風ラウンジのほか、コーヒーキングを想定したワークデスクやラウンジや、大きな鏡があるスタジオ、照明機を備えたフォトルームもあり、フリーランスのクリエイターを中心に、全123戸のうち80戸以上が契約済みなのだとか。

「平日入居者がなすばらき映画音楽たちを上映して、楽しんで、自分ではまずオケしないけど、この興味が、映画館に足を運びたいと思いました」

伊藤さんがそう語るように、入居者はプライベート空間を大切にしつつ、日々思いがけない化学反応を期待し、知られざる名作、今までの縁がなかったスポットや音楽の魅力を、これ、映画館を軸とする刺激の交差を享受し合っているのだろう。

F.I.L.M.S.和光での生活は、人見知りの筆者にとっては、さすがに武者修行的のような覚悟がいるが、思い切って飛び込んでみることに。その気にさせてくれる、限のない仕上がりで、それ以上の驚きに大阪にソーシャルアパートメントを初展開した同社は、今後、地方都市や海外進出に向け、同事業と併行して交流型ホテル、カフェをレストランのソーシャル、企画開発も加速させるという。さて、映画館の次は？ 筆者はこの快進撃には、しばらくは離せようにな。

取材・文：冬野小梅



第一目的は『交流』、独占はN.G こだわりの映画館で世界を広げる

ソーシャルアパートメント「FILMS 和光」
<https://www.social-apartment.com>



▲120インチ(画117cm、横320cm)スクリーン、4K液晶プロジェクター、7.1chサラウンドを備えたFILMS和光の映画館。DVDは持ち込み、オンライン配信サービスの視聴も、パソコンに入った映像も観賞し楽しめる



▲入居者は、映画館の入口の左手にある利用告知ボードで上映スケジュールを確認する